

(参考) 消費者教育の体系イメージマップ

Ver.1.0(平成25年1月公表)

	幼児期	小学生期	中学生期	高校生期	成人期			
					特に若者	成人一般	特に高齢者	
各期の特徴	様々な気づきの体験を通じて、家族や身の回りの物事に関心をもち、それを取り入れる時期	主体的な行動、社会や環境への興味を通して、消費者としての素地の形成が望まれる時期	行動の範囲が広がり、権利と責任を理解し、トラブル解決方法の理解が望まれる時期	生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断が望まれる時期	生活において自立を進め、消費生活のスタイルや価値観を確立し自らの行動を始める時期	精神的、経済的に自立し、消費者市民社会の構築に、様々な人々と協働し取り組む時期	周囲の支援を受けつつも人生での豊富な経験や知識を消費者市民社会構築に活かす時期	
重点領域								
消費者市民社会の構築	消費がもつ影響力の理解	おつかいや買い物に関心を持つ	消費をめぐる物と金銭の流れを考えよう	消費者の行動が環境や経済に与える影響を考えよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響を考える習慣を身に付けよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響に配慮して行動しよう	消費者の行動が環境、経済、社会に与える影響に配慮することの大切さを伝え合おう	
	持続可能な消費の実践	身の回りのものを大切にしよう	自分の生活と身近な環境とのかかわりに気づき、物の使い方などを工夫しよう	消費生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した生活を実践しよう	持続可能な社会を目指して、ライフスタイルを考えよう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを実践しよう	持続可能な社会に役立つライフスタイルについて伝え合おう	
	消費者の参画・協働	協力することの大切さを知ろう	身近な消費者問題に目を向けよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成について考えよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成に協働して取り組むことの重要性を理解しよう	消費者問題その他の社会課題の解決や、公正な社会の形成に向けた行動の場を広げよう	地域や職場で協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくらう	支え合いながら協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくらう
商品等の安全	商品安全の理解と危険を回避する能力	くらしの中の危険や、ものの安全な使い方に気づこう	危険を回避し、物を安全に使う手がかりを知ろう	危険を回避し、物を安全に使う手段を知り、使おう	安全で危険の少ないくらしと消費社会を目指すことの大切さを理解しよう	安全で危険の少ないくらしと消費社会をつくらう	安全で危険の少ないくらしの大切さを伝え合おう	
	トラブル対応能力	困ったことがあったら身近な人に伝えよう	困ったことがあったら身近な人に相談しよう	販売方法の特徴を知り、トラブル解決の法律や制度、相談機関を知ろう	トラブル解決の法律や制度、相談機関の利用法を知ろう	トラブル解決の法律や制度、相談機関を利用する習慣を付けよう	トラブル解決の法律や制度、相談機関を利用しやすい社会をつくらう	支え合いながらトラブル解決の法律や制度、相談機関を利用しよう
生活の管理と契約	選択し、契約することへの理解と考える態度	約束やきまりを守る	物の選び方、買い方を考え適切に購入しよう 約束やきまりの大切さを知り、考えよう	商品を適切に選択するとともに、契約とそのルールを知り、よりよい契約の仕方を考えよう	適切な意思決定に基づいて行動しよう 契約とそのルールの活用について理解しよう	契約の内容・ルールを理解し、よく確認して契約する習慣を付けよう	契約とそのルールを理解し、くらしに活かそう	契約トラブルに遭遇しない暮らしの知恵を伝え合おう
	生活を設計・管理する能力	欲しいものがあつたときは、よく考え、時には我慢することをおぼえよう	物や金銭の大切さに気づき、計画的な使い方を考えよう お小遣いを考えて使おう	消費に関する生活管理の技能を活用しよう 買い物や貯金を計画的にしよう	主体的に生活設計を立ててみよう 生涯を見通した生活経済の管理や計画を考えよう	生涯を見通した計画的なくらしを目指して、生活設計・管理を実践しよう	経済社会の変化に対応し、生涯を見通した計画的なくらしをしよう	生活環境の変化に対応し、支え合いながら生活を管理しよう
情報とメディア	情報の収集・処理・発信能力	身の回りのさまざまな情報に気づこう	消費に関する情報の集め方や活用の仕方を知ろう	消費生活に関する情報の収集と発信の技能を身に付けよう	情報と情報技術の適切な利用法や、国内だけでなく国際社会との関係を考えよう	情報と情報技術を適切に利用する習慣を身に付けよう	情報と情報技術を適切に利用するくらしをしよう	支え合いながら情報と情報技術を適切に利用しよう
	情報社会のルールや情報モラルの理解	自分や家族を大切にしよう	自分や知人の個人情報を守るなど、情報モラルを知ろう	著作権や発信した情報への責任を知ろう	望ましい情報社会のあり方や、情報モラル、セキュリティについて考えよう	情報社会のルールや情報モラルを守る習慣を付けよう	トラブルが少なく、情報モラルが守られる情報社会をつくらう	支え合いながら、トラブルが少なく、情報モラルが守られる情報社会をつくらう
	消費生活情報に対する批判的思考力	身の回りの情報から「なぜ」「どうして」を考えよう	消費生活情報の目的や特徴、選択の大切さを知ろう	消費生活情報の評価、選択の方法について学び、意思決定の大切さを知ろう	消費生活情報を評価、選択の方法について学び、社会との関連を理解しよう	消費生活情報を主体的に吟味する習慣を付けよう	消費生活情報を主体的に評価して行動しよう	支え合いながら消費生活情報を上手に取り入れよう

本イメージマップで示す内容は、学校、家庭、地域における学習内容について体系的に組み立て、理解を進めやすいように整理したものであり、学習指導要領との対応関係を示すものではありません。

若者・高校生向け消費者教育用副教材 「もしあなたが消費者トラブルにあったら」

【これからの社会を担う若者・高校生世代】

- ・消費者被害・事故に遭わない賢い消費者に育てる。
- ・「消費者」の権利と責任を自覚し、自立した消費者となることの大切さへ気づきを促す。

【本教材の特徴】

- ・映像教材(DVD)と冊子教材では、それぞれ単独でも併用でも使用できる。
- ・教師用解説書では、消費者教育の専門でない教員が教えることを想定。

(平成24年2月公表)

映像教材(DVD)



若者、高校生が巻き込まれやすい消費者トラブル事例を収録。

授業内容等に合わせて選択できるよう、全編再生だけでなく、各事例の単独再生も可能。

【掲載事例】

- ・ネットショッピングの落とし穴
(インターネットによるトラブル)
- ・おしゃれのリスク
(製品事故によるトラブル)
- ・もうけ話にご用心
(連鎖販売取引によるトラブル)

字幕版あり

冊子教材



新学習指導要領に対応し、ワークブックとしても使用が可能。

A4判 16ページ



教師用解説書



映像教材のポイントや、授業の展開例等を詳細に掲載。

A4判 32ページ

小学生(低学年)向け消費者教育用副教材(製品安全教材)

「みんなで危険を安全に」

【目的】

- ・商品やサービスの被害や事故に遭わない、自立した消費者となるためのステップ。
- ・安全な商品の選び方・遊び方、事故対応の仕方について考え、自分の生活を振り返り、安全に考慮した行動ができるようになる。

【特徴】

- ・どの教員もすぐに使用できるように、シナリオ、ワークシート、学習指導案なども作成。
- ・データはパワーポイントなどで作成しているので、全てパソコン上で展開可能。(電子黒板やスライドに映し出して使用できる。)

危険さがし

花火や台所など日常生活のイラストを見て、何が危険なのか、どうすれば安全になるかを考える。
夏休み前には、花火の場面など、単独で使用することもでき、様々な活用が可能。



電子紙芝居

製品事故と消費者市民社会がテーマ。
音声自動再生する。



<ストーリー>

おもちゃに指を切ってけがをした妹ふーちゃん。
お兄ちゃん、お母さん説明できるかな？
他の子もけがをしているのではと考えたお兄ちゃんは……。



おもちゃのマーク

おもちゃには、安全を示すマーク、おもちゃを使うときの注意を知らせるマークがあることをクイズ形式で楽しく学ぶ。



ワークシート



危険探しと紙芝居のワークシート。
危険探しのイラストは、他のイラストに差替えても使用できる。

ワークシートの他にも、ホームワーク、ペアレンツガイドもある。

教師用解説書

【掲載内容】

- ・各教材の使い方、解説
 - ・45分授業スケジュール
 - ・授業シナリオ
 - ・学習指導案
 - ・実践授業事例
- 他





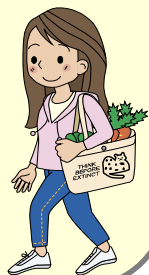
消費者問題の歴史を知る意義

現在、安全・安心な消費生活は、過去の消費者被害とその対策によるものであることがわかります。

このように考えると、現在の消費生活の諸問題への取組が、未来の人たちに影響を及ぼすことも理解することができます。

消費者問題の歴史を垣間見ることで、消費者問題を日々の生活と密接に関わる身近な問題として理解することができます。

消費者教育の担い手にとっては、受講者の世代等に応じて、消費生活に関する身近な話題・テーマを提供するヒントにもなります。

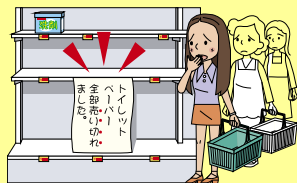


戦後を5つの時代区分に分けて解説

【1945年～50年代】 消費者問題の草創期

【1960年代】 大量生産、大量販売、大量消費から起きる消費者問題

【1970年代】 消費社会の多様化と暮らしの見直し



【1980年代】 物からサービスへ 情報化、国際化に伴う消費者問題

【1990年、2000年代以降】 情報化社会、国際化社会、高齢社会と消費者問題

* 各時代の概要を解説(例)

1980年代 物からサービスへ 情報化、国際化に伴う消費者問題

情報化、サービス化、国際化等の動きが加速し、消費者を取り巻く環境が大きく変化しました。そして、消費は「量から質へ」と・・・

各時代区で解説する主な出来事

- ・食糧メーデー「米よこせ大会」
- ・不良品マッチ追放主婦大会
- ・森永ヒ素ミルク中毒事件
- ・熊本県で水俣病が発生
- ・繊維製品品質表示法 【1945～】

- ・ケネディ大統領の「消費者の4つの権利」と国際消費者機構
- ・コセ牛缶事件
- ・カネミ油症事件 【1960代】



- ・カラーテレビの二重価格に対する買い控え運動
- ・国民生活センター発足
- ・無限連鎖講(いわゆるねずみ講)「天下一家の会」問題化
- ・PCB汚染問題
- ・クーリング・オフ制度の導入
- ・灯油やミカルテルに損害賠償を求める集団訴訟

【1970代】

- ・豊田商事事件問題化
- ・靈感商法被害多発
- ・輸入農産物の増加とポストハーベスト問題 【1980代】

- ・カード破産急増と多重債務による自己破産
- ・製造物責任法
- ・一口サイズのこんにやく入りゼリーによる窒息死亡事故
- ・消費者契約法
- ・消費者基本法
- ・公益通報者保護法
- ・中国産冷凍ギョウザで中毒事故発生
- ・消費者庁と消費者委員会発足
- ・越境消費者センターの開設
- ・消費者教育の推進に関する法律
- ・高齢者被害急増
- ・消費者安全調査委員会【1990～】

イラスト集のイラストの充実

<http://www.caa.go.jp/region/illustration/index.html>

パワーポイント、レジュメ、チラシ、広報誌、パンフレット、ポスター等に利用できます！



消費者教育・地方協力

新イラスト集 NEW

- (1) 消費者教育・見守り活動に関係する主な人物・機関・団体等 **NEW**
- (2) お金、支払い方法、取引方法、金融、司法関係等 **NEW**
- (3) 商品・サービス(金融関係を除く。)等 **NEW**
- (4) 食・環境・自然関連 **NEW**
- (5) 安全関連 **NEW**
- (6) 吹き出し(セリフあり) **NEW**
- (7) 吹き出し(セリフなし) **NEW**

イラスト207点
吹き出し24点

消費者庁HP
消費者教育・地方協力課
のページに掲載

多様な主体



様々な場面、分野に対応

